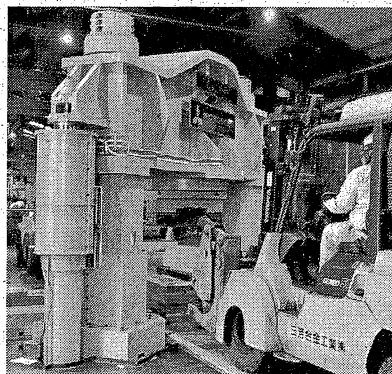


# 三芳合金が銅合金増産

## 樹脂成形 出荷量8割アップ

【川越】三芳合金工業（埼玉県三芳町、萩野源次郎社長、049・258・3381）は、樹脂成形金型向け銅合金を増産する。欧米市場で環境配慮型を中心に需要が拡大していることに対応する。本格稼働させた1500トプレス機をフル活用して生産性を高める。品質改善にもつなげ、まずは2020年で前年比8割増の出荷量を目指す。

銅合金は鋼材に比べ熱伝導率が高く、樹脂の9月に本格稼働した1500トプレス機



9月に本格稼働した1500トプレス機

射出成形機の金型に使うと鋼製の金型より早く冷えるため、樹脂も早く冷え固まり、時間当たりの射出回数を増やすことができる。その結果、樹脂製品を増産したいユーザーには「金型が鋼材より高価でも、射出成形機の台数を増やすより安い」（萩野社長）ため、銅合金の需要増につながっているという。

さらに欧米諸国では環境規制強化により、ベリリウムフリー銅合金へのニーズが急伸している。三芳合金でも銅にニッケルやクロムを微量添加することで、ベリリウム銅に匹敵する硬度と熱伝導性を両立した「NC合金」の出荷量が前年同期比2倍近いペースで伸長。20年は1～10月の勢いが12月まで続けば、少なくとも前年比8割増に達すると見ている。

また1500トプレス機の稼働により、高強度の銅合金の製造に欠かせない鍛造能力が大幅に向上。従来は最大2トのハンマー装置による手作業だったのに対し、「1500リットル以上の分厚い銅合金にも対応できる」（同）ことで生産スピードや処理量が大幅に向上。さらに、すべて数値制御で精密に管理するため、品質をより安定させられるとしている。